

学ぶ力の向上につながる 学校の実践事例



平成30年1月15日
滋賀県教育委員会事務局幼小中教育課

◇はじめに

本冊子は、県内の小中学校において、全国学力・学習状況調査の結果の分析から各校の課題を明らかにし、学力向上や学習状況の改善を図った取組や、学習指導要領改訂の移行期間として取り組まれている実践など、滋賀の子どもたちの学ぶ力の向上に向けた各学校の取組を紹介し、県内全域に広めようとするものです。

◇学ぶ力の向上につながる学校の実践事例

学ぶ力の向上に向けて、次の①から⑨の視点において、効果的な取組を実践されている学校を紹介します。各学校の「学ぶ力向上策」の改善検討に活用してください。

①生徒同士の関係づくりにも有効な基礎学力の定着にむけた取組

1 ページ

湖南市立甲西中学校

②教員の授業力が向上した校内研究会の充実

3 ページ

米原市立双葉中学校

③若手教員の資質能力が向上したOJTを重視した学校運営

5 ページ

竜王町立竜王中学校

④子どもの主体的な学習につながった授業と家庭学習をつなぐ取組

7 ページ

甲賀市立大原小学校

⑤学校も地域も活性化した取組

～地域と学校をつなぐ協働的な活動～

9 ページ

高島市立今津中学校

⑥生徒の意識が変わった生徒による自律的・自治的な活動の取組

～スマートフォンにかかわる生徒会の取組～

11 ページ

草津市立玉川中学校

⑦自分の考えや気持ちを伝え合うことができる小学校外国語教育の推進

13 ページ

愛荘町立愛知川小学校

⑧学びが実践へとつながる道徳教育の推進

15 ページ

多賀町立多賀小学校

⑨質の高い発表ができるようになった学校同士をつないだ学習

17 ページ

近江八幡市立沖島小学校

1

生徒同士の関係づくりにも有効な 基礎学力の定着にむけた取組

☑ 放課後スペシャルで基礎学力を身に付けます

基礎学力を身に付けるための放課後の補充学習を毎日実施しています。生徒と教員の関係づくり・生徒同士の関係づくりにも有効です。

ココを学びたい！

ポイント1

基礎学力定着のためのモジュールの活用



放課後スペシャルの取組

- ・帰りの会前の10分間、学習の時間を確保
- ・5教科(国、数、社、理、英)を1週交代
- ・週末テストで定着を確認
- ・週末テストから各教科の定期テストにつなげる

授業

放課後スペシャル

週末テスト

各教科定期テスト

放課後の補充学習を定期テストにつなげ、生徒の基礎学力の定着を図ります。

ポイント2

家庭学習支援としての放課後等学習教室

地域の方の力を子どもたちのために！

- ・放課後学習教室の充実（地域の学習ボランティア等の活用）
定期テスト前補充学習、長期休業中土曜朝塾学習教室、希望進路実現支援放課後学習教室

	湖南省立甲西中学校
学級数	18学級
生徒数	360名



○学校の特徴

「学力定着に向けた取組」 放課後スペシャル・わかる授業づくり

生徒一人ひとりが自ら進路を切り拓いていくことができる確かな学力を身に付けさせることをねらいとして、子どもたちがわかる喜びが味わえる授業づくりやモジュールの活用に取り組んでいます。

「学校全体の取組」 言語活動の充実

- ・全校朝読書、読み聞かせを15年前から継続して実施しています。
- ・言語活動の充実のため、ペア学習やグループ学習を取り入れ、「練り合い」による授業改善にも取り組んでいます。

※平成27・28年度 道徳教育の抜本的改善・充実に係る支援事業(文部科学省・県教育委員会指定)

※平成29年度 中学校授業改善推進加配(コアティーチャー)事業(県教育委員会指定)

※平成29年度 学校司書の資格・養成の在り方や資質能力の向上等に関する調査研究(県教育委員会指定)

ポイント1の具体的な取組

○放課後スペシャルの取組から

〈取組〉

基礎学力の定着を図るため、帰りの会前の10分間、学習の時間を確保しています。
5教科を1週交代で行い、月～木をプリント学習の日、金曜日にその週で学習した内容のテスト(週末テスト)、また教科の定期テストにもつなげていきます。

〈成果〉

自分で解くことを基本としていますが、教科によっては周りの生徒や班で「学び合い」をしながら取り組むこともあります。
生徒同士互いの得意な分野、不得意な分野を知り、授業でも自然にサポートし合える関係が生まれてきました。

【午後の日課】

給食・休憩	12:45～13:35
5校時	13:40～14:30
6校時	14:40～15:30
掃除	15:35～15:45
放課後SP	15:50～16:00
帰りの会	16:00～16:10



読書 理科 第4週 ① 電流の性質
2年 組 名前 _____

図1

① 図1で、aに1.0A、bに3.0Aの電流が流れているとき、c、dにはそれぞれいくらの電流が流れているか。

c _____
d _____

② 図2で、eに3.0Aの電流が流れているとき、e、fにはそれぞれいくらの電流が流れているか。

e _____
f _____

図2

③ 図2で、A,B間、C,D間にはそれぞれいくらの電圧がかかっているか。

A,B間 _____
C,D間 _____

④ 図2でB,C間、E,F間にはそれぞれいくらの電圧がかかっているか。

B,C間 _____
E,F間 _____

放課後スペシャル (2017年9月19日)

1. 南アフリカの人種隔離政策を、何といえますか。

答 _____

2. サハラ砂漠以南の飢饉問題の場所を、何地帯といえますか。

答 _____

3. 東南アジアやアフリカに見られる外国の企業が経営する大規模農園を、何といえますか。

答 _____

4. より適正な価格で取引を行い、人々の自立と生活を支える取引を、何といえますか。

答 _____

5. モノカルチャー経済について、「輸出」のこぼを使って説明しなさい。

1年 組 番・名前 _____

<1年学習プリント社会>

ポイント2の具体的な取組

○放課後等学習教室の充実 ～ボランティアや高校との連携を図った進路学習の推進～

※地域学習ボランティアの活用

地域の方々に声をかけ(注)、教育活動推進員4人、元教員や卒業生(大学生)が学習支援ボランティアとして参加

※校区にある甲西高校の生徒が、放課後に甲西中学校へ寄って、「寄り道ボランティア」として、学習支援に参加

【活動内容】

- ・定期テスト前補充、質問学習教室(テスト1週間前より開室)
- ・長期休業中土曜朝塾学習教室(部活動単位に土曜日の午前中開室)
- ・希望進路実現支援放課後学習教室(10月より3年生を対象に開室)



〈地域ボランティアの募集〉

今年も3年生の放課後学習を10月より始めています。週に2日程度で4時15分から30分間ほどしかありませんが、お手伝いしていただける人を募集します。

詳しいことは、甲西中学校教頭・地域コーディネーターにお電話ください。

(注)学校だよりで地域ボランティアをよびかけたものです。

学校だよりでボランティアの募集をお知らせしています。



地域ボランティアの方にわからないところを教えてください。



2 教員の授業力が向上した校内研究会の充実

☑ 教員が一丸となって校内研究に取り組んでいます

行事に一丸となって取り組む子どもたちと同じように、校内研究に一生懸命取り組める教員集団は非常に活力があり、学校全体の活性化につながります。そして、校内研究を活用して教員の授業力向上を図ることは、「できた！わかった！」という、子どもの学ぶ力の向上につながります。

ココを学びたい！

ポイント1 教員の「主体的・対話的で深い学び」の実践

活発な意見が飛び交う校内研究会

・グループや全体交流を効果的に行うなかでの、教員自身の考えの深まり

ポイント2 事前に参観の目的や分析の視点が示されている研究授業

授業者が生徒の学びをみとる力を高めるために

・参観者が具体的に授業を見つめて校内研究会に生かすための、参観の目的や分析の視点の共通理解

双葉中学校では、「共に学び合い、一人ひとりが学びを深める授業づくり」を校内研究の主題とし、授業で生徒一人ひとりの学びをていねいにみとる力を教員全員が身に付けようと取り組んでいます。

視点を明確にして授業を分析することより、課題を焦点化して議論を深めていく校内研究の方法は、教員の授業力向上にとっても効果的です。



米原市立双葉中学校	
学級数	14学級
生徒数	340名



○学校の特徴

「授業での取組」 学ぶ力を伸ばす授業づくり

「生徒が関わり合い、高め合う授業づくり」をテーマにして取り組み、今年度は5年計画の3年目となります。今年度は、主体的・対話的で深い学びの実現に向けて、校内研究推進委員会を中心に、全教員の公開授業実施を行うなかで、学力向上に取り組んでいます。

「学校全体の取組」 共通実践ができる体制づくり

- ・学習環境の整備や統一した座席隊形(4人グループ)を基本とした、グループ学習の推進
- ・他の教員の授業を参観できる体制づくり(授業者のみとる時間の確保)
- ・県内外への積極的な先進校視察

※平成28・29年度 主体的・協働的な学び推進事業(県教育委員会指定)

※平成29年度 中学校授業改善推進加配(コアティーチャー)事業(県教育委員会指定)

ポイント1の具体的な取組

○校内研究会の様子

毎回、熱い議論が交わされています



3~4人の小グループで考えを広げる



コの字型になり、全員で考えを深める



教員一人ひとりが主体的に参加し、研究会で焦点付けられた課題について考えます。対話を通じて他者の考えを学び、振り返りを行うことで教員自身が学びの深まりを実感し、自分の授業を改善していく姿は、まさに「主体的・対話的で深い学び」そのものです。

ポイント2の具体的な取組

校内研究会で深い学びができるよう、事前に公開授業の目的や分析の視点を明確にしています。



【参観のポイント】

- ・参観する対象（個人やグループ）を決めて変容をみとるようにする
- ・生徒の表情やつぶやきが見聞きできるような位置で参観する
- ・生徒の様子を写真に撮り、授業研究会で積極的に活用する
- ・生徒の会話に入ることや質問に応じることなく、学習活動を見守ることに徹する
- ・グループ活動時には机間に入り、授業者が教室を見渡せるように配慮する

【参観の目的】

- ・子どもの学びをみとる力の向上を目指す（生徒の学びの様子から、内面で起こっている生徒の心の変容を推察する力を磨く）

【分析する視点】

- ・適切なめあての設定であるか
- ・グループ学習における教師の支援は適切か
- ・子どもが授業に集中できる学習環境か
- ・子どもの深い学びが成立した箇所はどこか

【校内研究会の振り返りより】

授業中に「わからん」と声に出して言える生徒は、実は自分で学びを深めることのできる生徒です。本当に支援の必要な子どもは教室で息を潜めていることが多いのです。私は、校内研で生徒の学びをみとる大切さを学び、その視点をもって授業に臨むようになりました。

今後も、内容に応じてグループ学習を取り入れる等、全員が主体的に学べるよう工夫しながら、つまり生徒に対して素早く適切に手立てを行えるよう、自分の授業力を高めていきたいと考えています。

✓ 教員は学校で育ちます

教員の資質能力を向上させるために、全教員が主体的に参加できる年間を通じた授業研究の取組や校内組織の工夫が、生徒の学ぶ力を育む姿につながっています。

ココを学びたい！

ポイント

全職員で支え合いながらの取組

生徒の学ぶ力を育むために

- ・若手教員の資質能力の向上
「竜中学びのスタンダード 5Cラーニング」をもとにした授業改善
- ・生徒による「授業アンケート」を実施
生徒自身の評価(フィードバック)を振り返り、
教員自身の授業改善に生かす
- ・ベテラン教員と若手教員の調和のとれた連携と若手教員からも学ぶベテラン教員の姿勢

生徒主体の授業づくりをめざした「竜中学びのスタンダード 5Cラーニング」をもとにした校内研究に取り組み、授業改善を進めています。
また、全職員でのOJTを進めており、その結果が、生徒の学ぶ力を育む姿につながっています。



	竜王町立竜王中学校
学級数	13学級
生徒数	313名



○学校の特徴

「授業での取組」 学ぶ力を伸ばす授業づくり

竜中学びのスタンダード(5Cラーニング)の視点で授業を見直し、課題設定の工夫や学習の見通しの持たせ方、自力解決への支援や協働学習の設定、効果的な振り返りの方法など、主体的・協働的・創造的な学習に向かう授業づくりを進めています。

「学校全体の取組」 共通実践ができる体制づくり

授業のユニバーサルデザイン化、ICT機器の活用、学習規律の徹底、仲間を支える学級集団を育てるなどの取組を土台に、「5Cラーニング」を作成し、効果的な学習方法や授業者の支援等について授業研究を行っています。

※平成29年度 小中高系統的英語教育推進事業(県教育委員会指定)

ポイントの具体的な取組

○生徒の学ぶ力を育むために

変容した生徒の姿

「学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができた。」

(前年度より +42.7ポイント)

「みんなで協力して何かをやり遂げ、嬉しかった。」

(前年度より +34.7ポイント)

(平成29年度全国学力・学習状況調査 生徒質問紙より)



全職員でのOJTが、
生徒の学ぶ力を育みました。



☆OJTを通じた校内研修会の充実

- ・学年や教科の枠を超え、「**童中学びのスタンダード 5Cラーニング**」をもとにした、同じ視点での授業改善を行っている。
- ・研究会は、全員参加型（ワークショップ型）が定着し、学年や教科、ベテラン・若手の区別のないグループをつくり、活発な議論を行っている。
- ・若手教員は、教科部会の他、所属学年の授業参観を行い、自身の授業改善に役立てている。
- ・若手教員研修の機会を生かしながら、全職員による研究会を実施している。
- ・若手教員の積極的な授業改善の取組に、ベテラン教員が助言を行っている。



5Cラーニング 童中学びのスタンダード

①出会う 課題を積極的に受け止め、意欲的に向き合う

Catch

②結びつける 既存・既習の知識技能と結びつける

Connect

③向き合う 自分の力を頼りに一人で課題に向き合う

Challenge

④つなげる 友達の考えをつなぎ、考えを深める

Corporate

⑤振り返る 自分の学びを振り返り、自己評価を行う

Check

☆学校文化の維持・継続

- ・ベテラン教員と若手教員の2人主任体制をとり、これまでの取組や学校文化を継承しています。

アドバイスを受けながら、思い切った授業改善にチャレンジできる環境がありがたいです。

同僚性の 確立

☆若手教員から学ぶ

- ・ICT機器の具体的な操作方法を、ベテラン教員が若手教員から学びました。



若手教員

4

子どもの主体的な学習につながった 授業と家庭学習をつなぐ取組

授業で生きる予習が子どもを成長させます

予習をすることで授業での学びが深まることを子ども自身が実感できると、子どもは主体的に学習に取り組みはじめます。その仕組みを算数科を通して学校全体で取り組んでいます。

ココを学びたい！

ポイント

予習を取り入れた学習指導

予習を活用した、問題解決型学習の取組

- ・予習課題を授業での学習内容に取り入れながら問題解決を図ることで、子どもの「できた！わかった！」につながる取組
- ・自分で調べたことや考えたことをわかりやすく文章に書く力の向上の取組

大原小学校では、主体的な学びを促す授業を展開するために、家庭での予習を通じて、子どもの理解度を予め見取り、授業に生かす工夫が行われています。また、予習を行うことで、グループ学習までの流れが円滑になり、ねらいを達成するためにていねいに授業を進めることができます。

子どもの学習に対する理解度を高めることや、主体的に学習に取り組もうとする意欲の向上につながっています。



	甲賀市立大原小学校
学級数	10学級
児童数	221名



○学校の特徴

「授業での取組」 学ぶ力を伸ばす授業づくり

- ・「友だちと響き合い、心豊かな学級をつくる子どもの育成～主体的な学びを促す授業展開の工夫を通して～」を校内研究のテーマとして、「こうか授業術5箇条」を基に、主体的、協働的に児童同士が意見をつないで課題解決を図る学習スタイルの確立に取り組むとともに、実生活に生かせる課題や発問、教材の工夫、思考の過程がわかる板書計画、ノート指導の充実を図っています。

「学校全体の取組」 共通実践ができる体制づくり

- ・学力向上のための授業改善 「自分の考えをもち、互いに学び合う授業」への改善
- ・学びの習慣づくり(学習規律の習得・言語活動の充実・家庭との連携による家庭学習)
- ・読書活動の充実(読み聞かせや読書ボランティア等による読書活動の推進)
- ・学びの土台づくり(児童に考えさせる場づくり・認め合える学級風土づくり・学力アップ補強)

※平成29年度 第Ⅴ期こうかの学び向上事業(市教育委員会指定)

ポイントの具体的な取組



【取組内容と成果】

- 1 予習では、自分の考えを言葉や図や式などで説明するようにしています。書く力や、自分で考える力を養うことにつながっています。
- 2 予習を通じて自分の考えをもつことができると、児童は授業で友達と話し合うことが楽しくなり、主体的・対話的な学びへとつながっていきます。
- 3 予習の取組を確認することで、授業開始までに子どものつまずきの様子がわかるようになります。子どもの理解度に合わせて学習支援を行うことができるとともに、毎時間の学習の確実な積み上げを実感できます。

大原小での、予習を活用した授業の様子

【家での予習】



学年ごとに示された時間内で無理なく考えられる問題にしています。

予習課題
「 $0.2 + \frac{1}{5}$ の計算の仕方を考えましょう。」

1

【めあての確認→グループ学習】



予習したけれど、小数と分数を足せなかった。

めあて 「小数と分数の混じった計算の仕方を考えよう。」

めあては、自分たちが予習で考えてきた疑問から提示されます。

予習をしているので、授業の初めから自分の考えを伝えたり、みんなの考えを聞くことができます。

2

【まとめ1へ】



様々な考え方があることに気づきながら、意見をまとめていきます。

まとめ1 「小数と分数がまじった計算は、小数同士か分数同士にそろえれば良い。」

3

【適用問題1→ゆさぶり(思考を深める発問)】



問題 「 $\frac{5}{6} - 0.8$ はいくらつになりますか。」

「あれ？この分数は小数にできないぞ？」

4

【みんなで議論→まとめ2へ】



前に、小数で割り切れない数字は分数に直せば良いって習ったよ。

そうか、小数でできないことがあっても、分数ならできるんだ。

子どもたちのつぶやきから本時のまとめを行います

まとめ2 「小数と分数のまじった計算では、分数に揃えて計算する方が正確にできる。」

5

【適用問題2→子どもの理解度を確認】



「わかった！できた！」

予習してきたことが新しい学びにつながっていることを実感するので、子どもたちはより一層、予習に取り組んでいきます。

予習は、算数科を中心に、多様な考えを導きやすい学習内容で活用しています。

予習を活用した学習を継続することで、子どもたちは自分の考えをしっかりともち、思いを話せるようになってきました。また、話を聞く姿勢や、仲間の意見を認め合う雰囲気もつくられてきました。

予習は様々な効果を生み出しますが、継続には、家庭との連携が欠かせません。大原小では、「ラ・ラ・ラー忍グ」という、生活記録と学習記録を合わせたカードを使用して家庭と協力しながら学習に取り組んでいます。

5

学校も地域も活性化した取組

～地域と学校をつなぐ協働的な活動～


地域とともに歩んでいます

よりよい社会をつくるという目標のもと、地域と協働した活動に取り組むことは、新学習指導要領で謳われている「社会に開かれた教育課程の実現」につながります。

ココを学びたい！

ポイント 地域と学校をつなぐ協働的な取組

今津中学校サポーター会

- ・「今津中学校サポーター会」の活動で、地域ぐるみで授業支援
- ・環境安全支援でよりよい学校環境づくり




学校の樹木の枝払い作業

今津中学校カフェ

- ・空き教室を利用した住民の方と生徒との交流
- ・文化交流やふれあい活動



カヤック運搬



地域の人々が、学校を温かく見守りながら、できる活動を学校と共に取り組んでおられます。



高島市立今津中学校

学級数 12学級

生徒数 292名

○学校の特色

学習規律の確立

確かな学力を身につけることを第一として、ベル着の徹底・基礎学力の定着を図っています。

家庭との連携を図った学習習慣の定着

家庭の協力を得ながら小中一貫した「家庭学習の手引き」を活用しています。

年5回の家庭学習強化週間を実施しています。

指導力向上を図る

ICT機器を効果的に活用した授業や高島市が目指す授業モデルの実践を行っています。

「高島市がめざす授業モデル」

- ①めあてを確認する（導入）
- ②自分で考える活動を確保する（展開）
- ③仲間と学び合う活動を取り入れる（展開）
- ④学んだことを実感させる（まとめ）

※平成26・27年度 言語活動スタートアップ事業（県教育委員会研究指定）
～自ら学び、考えたことを表現する生徒の育成～をめざした取組

ポイントの具体的な取組

○今津中学校サポーター会の活動 (H20~H29)

【活動支援に関すること】

- ・授業の補助
- ・入試模擬面接の面接官
- ・カルタ大会の読み手など

【行事支援に関すること】

- ・体育祭、文化祭の準備
- ・ブロック陸上、校内駅伝大会競技役員
- ・琵琶湖横断カヤックの安全サポート

- ・キャリア教育講話、講師紹介

【環境安全支援に関すること】

- ・庭木の剪定
- ・花壇、芝生の整備
- ・グラウンド周辺の草刈り
- ・安全パトロールなど

※地域素材や人材の活用、体験学習の拡充等、地域と共によりよい学校づくりに努めています。



理事会

サポーター会員資格は、PTA会員・元PTA会員・校区に居住または勤務されている方・学校に縁のある方です。サポーター会通信で募集を行います。

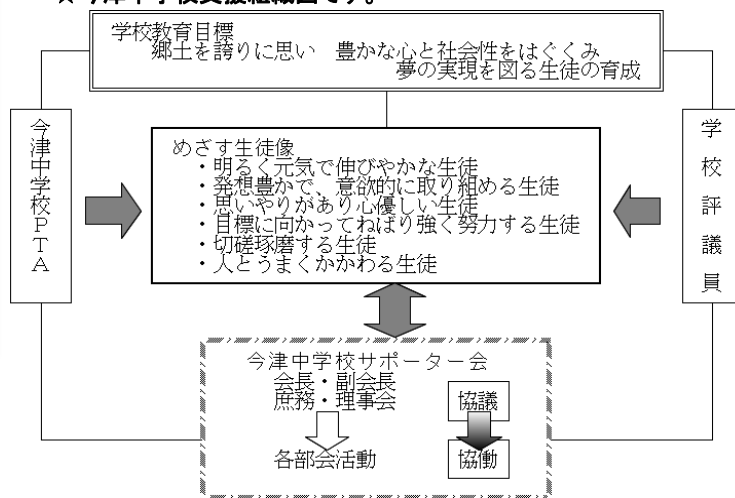


今津中学校サポーター会入会登録カード

*上記、設立の趣旨に賛同し、今津中学校サポーター会に入会します。

氏名			
住所	〒		
連絡先	電話	携帯電話	
	Fax		
	携帯メール		
	コンピューターメール		
支援できる支援したい分野 (内容)			

☆今津中学校支援組織図です。



※入会した会員は、理事会で検討された計画のもとに支援できる部会に所属し、各活動に参加していきます。

○今津中学校カフェの活動

【設立の経緯】

・平成27年10月から「今津ふくしの会」のよびかけにより始まり、平成28年4月より月1回第3水曜日に開催しています。

【組織】

・高島市社会福祉協議会が事務局
・今津ふくしの会が主催者として実働

【活動内容】

・支援学級交流
・部活動交流
・文化祭の取組など生徒との交流

空き教室を利用して、地域住民や中学生と一緒に活動し、交流が深まっています。



文化祭で展示する折り鶴を作りながら中学生と地元の人たちの会話がはずみます。



支援学級の子もたちとの交流で、クリスマスの飾りを作ったり、話をしたりして楽しく過ごしています。

6

生徒の意識が変わった生徒による自律的・自治的な活動の取組

～スマートフォンにかかわる生徒会の取組～

✓ 生徒会を中心に自律的・自治的な活動に取り組んでいます

スマートフォンの使用のルールを生徒自らが決めた取組が広がり、市内全ての中学校が、いじめ等の防止にむけた学校独自のきまりを生徒会を中心に決めて、取り組んでいます。

ココを学びたい！

ポイント1 生徒会を中心としたスマホルール制定の取組

全校生徒、保護者の意見を取り入れる

- ・アンケートの実施
- ・アンケート結果をもとに学級討議
- ・ルールを検証し、改正

スマートフォンをきっかけとしたトラブルやいじめを防ぐと、生徒自身の力で取り組んでいくことが大事です。

生徒会の発案によりアンケートを実施、学級討論を経て「スマホルール」を制定しました。その後も、ルールの検証、改正を行い、これまでより身近なルールにしました。

さらに、小学生に広める活動に発展していきました。

ポイント2 スマホルールを広める活動

多くの人に知ってもらう

- ・小学校への出前授業
- ・中学校入学説明会で保護者に説明



	草津市立玉川中学校
学級数	17学級
生徒数	497名



○学校の特徴

「授業での取組」 学ぶ力を伸ばす授業づくり

平成24年度～26年度の県の「しが環境教育リーディング事業」で培った学びを生かし、自らが課題を設定し、課題解決に向けて行動する力をもった生徒の育成に取り組んでいます。

「学校全体の取組」 共通実践ができる体制づくり

「学ぶ力向上 滋賀プラン」や草津市の学力向上プログラムに則り、CAPDサイクルによる授業改善に取り組んだり、教科部会や教員相互の授業参観、研究会を行ったりしています。また、タブレットを活用した授業を展開し、教科部会等でICT機器の効果的な利用方法を交流しています。

ポイント1の具体的な取組

○スマートフォンをきっかけとしたトラブルを防ごう

生徒会の発案により、保護者と生徒にアンケートを実施し、実態を把握する。

アンケート調査の結果から携帯電話やスマートフォンのルールづくりの必要性を感じた。

アンケート集計結果に基づき、学級で討議を行う。

《学級討議の柱》

- ・ 学習や睡眠時間を大切にする。
- ・ 友人関係を大切にする。
- ・ 自分や周りの人の人権を大切にする。
- ・ トラブルを早く解決する。



玉中スマホルールを全校集会で決定する。

- ①夜10時以降は使用しない。
ただし、緊急時の返信のみ可
- ②人の悪口をかかない。
- ③個人情報をのせない。
- ④もし困ったら大人に相談する。



生徒の意識や行動の変化の調査を行い、スマホルールの有効性を確認する。

約半数の生徒が、「ルールがあることでスマートフォンの使い方について意識が変わった。」と回答しました。

ポイント2の具体的な取組

○スマートフォンの使い方を考えてもらおう

小学校6年生への出前授業



SNSを利用したトラブルからいじめにつながる状況が多いけれど、中学校での取組の様子を伝え、友だちや先輩との付き合い方についての不安を取り除いて、安心感をもって入学してきてほしい。

小学生にもスマホの普及が進んでいるから、使い方によっては危険性が潜んでいることを、家庭での話題に取り上げてほしい。

中学校入学説明会において、保護者に向けての説明とスマホカード配布の取組を行っている。

7

自分の考えや気持ちを伝え合うことができる 小学校外国語教育の推進

✓ 小学校外国語教育の充実をめざしています

新学習指導要領により新設される小学校外国語科および外国語活動の全面実施に向け、外国語教育のさらなる充実が求められます。

ココを学びたい！

〔小中高外国語教育の目標〕
コミュニケーションを図る
資質・能力の育成

新学習指導要領に示された外国語教育の目標を実現するには、実際の使用場面を想定することによって「聞くこと」「話すこと」の言語活動を充実させるとともに、効果的な文字指導を導入することが大切です。

愛知川小学校では、コミュニケーションを通して、「人とのつながり」を大切にした教育が推進されています。



愛荘町イメージキャラクター「あしよさん」 →

ポイント1

効果的なアルファベット指導

読むこと・書くこと

文字指導の導入により、アルファベットの「定着」へ！

- ・音声に十分に慣れ親しませ、楽しみながらアルファベットの順番を覚える活動を設定
- ・アルファベットカードを集めて名前を書くなど、目的意識をもった活動を設定

ポイント2

考えや気持ちを伝え合う言語活動

聞くこと・話すこと

実際の使用場面を想定し、英語の「練習」から「使用」へ！

- ・話されている内容に意識を向けさせるため、うなずきやあいづちを重視
- ・中学校への接続を考え、その場で質問したり答えたりする「やり取り」を重視

	愛荘町立愛知川小学校
学級数	21学級
児童数	543名

○学校の特色

1. 子どもと共に育つ教育活動
 - ・「いのち」「人権」を大切にする教育を推進
 - ・主体的・対話的で深い学びを実現する授業の創造
2. 保護者と共に育てる教育活動
 - ・家庭や地域との連携を密にし、地域に開かれ、信頼される学校づくりの推進
3. 教職員が共に育てる教育活動
 - ・教科横断的なカリキュラム・マネジメントの推進
 - ・町内関係機関との連携による個別支援の充実

※平成29年度 小学校英語パイオニアプロジェクト実施校

愛荘町の教育「五愛十心」



ふれ愛

学び愛

育ち愛

支え愛

高め愛

- ① 群がる心
- ② 自分らしさを発揮する心
- ③ 知りたがる心
- ④ 許せる心
- ⑤ 集中する心
- ⑥ 広げる心
- ⑦ まとめる心
- ⑧ 押しの強い心
- ⑨ 感動する心、感謝する心
- ⑩ 守る心

ポイント1の具体的な取組

「読むこと」「書くこと」の導入

○アルファベットの「定着」へ！

新学習指導要領では、アルファベットの読み書きの定着が求められます。

音から文字へという流れを大切にしながら、スモールステップでの定着を図っています。どの児童にも確実な定着を図るため、ゲーム的な要素も取り入れています。「読むこと」「書くこと」でも、目的をもった活動を仕組み、書く練習をするためだけの活動にならないようにしています。



時間	児童の活動	教師の支援と評価(☆)
7分	<p>【GAME】</p> <p>ANZゲームの進め方</p> <ol style="list-style-type: none"> 4～5人のグループに1セットの児童用絵カード（大文字）を準備する。 ANZのカードをあらかじめ並べておき、<u>順に1枚ずつアルファベットを言いながら出し、つなげていく。</u> 手持ちのカードで出せる場所がなければ、パスをする。 早くカードがなくなったら勝ちとする。 	<p>「音声と文字の一致」</p>

ポイント2の具体的な取組

「聞くこと」「話すこと」の充実



○英語の「練習」から「使用」へ！

簡単な自己紹介では、発表者の発言に対して“Me, too.”と答えたり、発表者が聞き手に英語で質問したりします。発表者の伝えたい内容に意識を向けることで、単なる英語の「練習」から「使用」へと近づけます。

また、思いを伝えるコミュニケーションの楽しさを感じることを通して、友だちのことをよりよく理解し、共感していくことを大切にしています。

時間	児童の活動	教師の支援と評価(☆)
20分	<p>【ACTIVITY】</p> <p>「楽しい言語活動」</p> <ul style="list-style-type: none"> グループ内で自己紹介し、「好きなもの」「欲しいもの」を相手に伝えたり尋ねたりする。 次時の自己紹介プレゼンテーションに向けて、<u>友だちに評価してもらい、アドバイスをしあう。</u> 	<p>「目標の明確化」</p> <ul style="list-style-type: none"> 評価の視点や目指すべき姿を共有する。 聞く姿勢の大切さを伝える。 活動の途中で中間評価を行う。児童と、活動の状況や英語使用の状況等を共通理解し、後半のスピーチを行う。 <p>☆自分の好きなものや欲しいものなどを相手に伝えている。</p>

「言語活動の必然性」
「言語の使用場面」

「本時で付けさせたい力」「目標と指導と評価の一致」

8 学びが実践へとつながる道徳教育の推進

☑ 「考え、議論する」道徳授業の充実を図ります

45分間の中で、子どもたちが自己の生き方について考える時間が確実にある授業づくりや、家庭・地域と連携した取組を充実させていくことで、子どもたちの道徳性は豊かに養われていきます。

ココを学びたい！

ポイント1

目標に基づく授業構想～発問・言語活動・評価～

児童が道徳的価値の理解を多面的・多角的な思考の中で自分との関わりの中で深め、自己の生き方について確実に考える授業づくり

効果的な発問の設定や、子どもたちから出た意見をもとに話し合いを重ね、ねらいに迫っていくような授業展開の研究を進めることにより、子どもたちの道徳的価値の理解がより深まっています。

また、教師による授業評価を行い、授業改善を進めています。



ポイント2

道徳性を豊かに育む家庭・地域との連携

地域全体で子どもを見守り、育てる環境づくり

家庭・地域と連携し、校区全体で子どもを見守り、育てる環境を整えることで、子どもたちの道徳性はより一層豊かに養われていきます。



	多賀町立多賀小学校
学級数	14学級
児童数	347名



○学校の特徴

めざす子ども像(多賀小学校HPより)

- ・いきいきと自信を持って学び、将来に希望の持てる子ども
→わかる授業の中で自ら考え、判断し、成就感を得ることで自尊感情を持ち、将来の自分に思いをはせられる子ども。地元多賀町が好きな子ども。
- ・明るく生活し、自他に思いやりのある子ども
→自分だけが楽しいのではなく、どのようにすればみんなと楽しく生活できるのかが考えられ、そのために自分にも仲間にも思いやりを持てる子ども。
- ・粘り強く、たくましく元気な子ども
→最後まであきらめず、やり通す強い信念をもつ子ども。毎日、大きな声で挨拶のできる子ども。「多賀小学区はあいさつ学区」

※平成29年度

道徳教育の抜本的改善・充実に係る支援事業
(文部科学省・県教育委員会指定)

ポイント1の具体的な取組

- ① 考え、議論する時間の充実を図る。
- ② 中心発問に対する自分の考えや、振り返りの記述の充実を図る。
- ③ ポートフォリオを活用した指導と評価の充実を図る。



グループで意見を交流し、多様な考えに触れる。



出た意見の中で、質問したいこと、さらに話し合うことを確認する。



再度全体で話し合うことを通して、道徳的価値の理解を自分との関わりで深める。

展開後段で、できた経験、できなかった経験の両方を問うことで、だれもが話し合いに参加できるようにする。

授業で書き込んだプリントは、後日振り返ることができるように各自ファイルに残すようにする。

〇みんながつかう通しものものを、じぶんはつくったが、ふりかえりましょう。	〇みんながつかう通しものものを、じぶんはつくったが、ふりかえりましょう。	〇みんながつかう通しものものを、じぶんはつくったが、ふりかえりましょう。
--------------------------------------	--------------------------------------	--------------------------------------

【視点③】
書く活動が適切であったか。

【視点②】
考える時間が、有効であったか。

【視点①】
価値理解が深まる発問であったか。

研究会での学びを次の道徳授業に生かし、授業改善を進めます。

ポイント2の具体的な取組

日頃お世話になっている地域の方をゲストティーチャーとしてお招きし、授業に参加していただきます。



学校の道徳授業の実践を各家庭に配付したり、地域に回覧したりして、発信しています。



地域をお願いをして、校区に「あいさつ通り」を設置し、子どもたちが作成したポスターを貼り、毎日元気なあいさつが飛び交います。



お家の人からの手紙を読むことで、学習内容を自分事としてとらえることにつながります。

9

質の高い発表ができるようになった 学校同士をつないだ学習

☑ 小規模校の強みを生かし、課題を解決するために主体的・対話的な学びを進めています

小規模校では、子どもたち一人ひとりにきめ細かな指導が行いやすいなどの利点がある一方、複式学級での指導や、多様な見方や考え方が出にくいという課題があります。Web会議システムで、離れた学校同士をつなぎ、合同で授業を行うことを通して主体的・対話的な学びの工夫をしています。

ココを学びたい！

ポイント

Web会議システムを活用した遠隔地合同学習

主体的・対話的で深い学びを生み出す 合同学習の取組

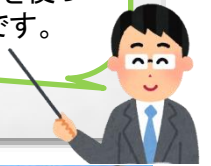
- ・教科の学びを深めるための単元・授業構想
- ・表現力を高め、発表意欲が高まる場の設定

Web会議システムを活用するための 環境設定の工夫

- ・スムーズな交流に配慮した音声やカメラの操作
- ・ICT機器のトラブルを想定した準備

各学校での学びを他校の友達に発表することで、子どもの意欲が高まるとともに、相手を意識した質の高い発表につながります。

自校だけでは深まりにくい学習内容については、Web会議システムを使った学習が効果的です。



近江八幡市立沖島小学校	
学級数	4学級
児童数	19名



○学校の特色

「授業での取組」 学ぶ力を伸ばす授業づくり

平成28年度より県の事業「小規模校に対する特色ある学校づくり支援事業」に取り組んでいます。タブレット端末や電子黒板などのICT機器の長所を生かした表現活動や、県Web会議システムを利用して、遠隔地合同授業を実施しています。

「学校全体の取組」 共通実践ができる体制づくり

複式学級で編制されている学級が多く、自ら学習を計画し、一人で学習を進める時間が多く、学び方の習得にも重点を置いています。また、沖島独自の教材を開発することで沖島を愛する心を育てたり、活動することを通して伝えたいという気持ちを育んだりすることにも力を入れています。

※平成28・29年度 小規模校に対する特色ある学校づくり支援事業(県教育委員会指定)

ポイントの具体的な取組

☆主体的・対話的で深い学びを生み出す合同学習の取組

合同学習をする前に

事前に相手校の先生と十分に打合せをすることが大切です。

- ・合同学習をすることで学びの効果が上がる教科・単元を考える。
- ・単元を通してどこで合同学習を取り入れたら効果的か考え、計画を立てる。
- ・1時間の学習時間で、本校で活動する時間と交流する時間を考える。
- ・合同学習を行う意義を子どもたちに伝える。

中学年の実践事例

(総合的な学習:発見!まちのいいところ)

教科の学びを深めるための単元・授業構想

自己紹介
学校紹介
クイズ大会

Web
会議

自分のまちの
魅力について
考える

本校
学習

マキノ西小
合同授業

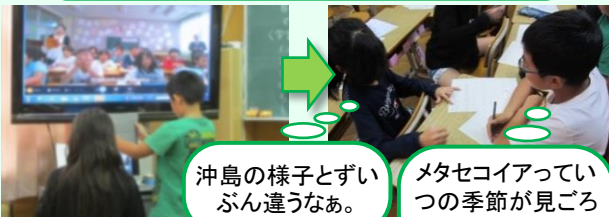
交流
学習

校外学習で訪
問し、交流する

Web
会議

まちの魅力を
紹介し合う

互いのまちの魅力を発表した後、さらに質問したいことをペアで考えました。



沖島の様子とずいぶん違うなあ。

メタセコイアっていうの季節が見ごろなのかな?

校外学習(びわ湖一周)の途中マキノ駅で下車し、マキノ西小学校を訪問し、本物のメタセコイア並木で記念撮影しました。



子どもの様子
交流することで、新たな疑問が生まれ、実際に行ってみたという気持ちが強くなりました。

高学年の実践事例

(外国語活動:What's this? It's~.)

表現力を高め、発表意欲が高まる場の設定

4校
合同授業

小規模校に対する特色ある
学校づくり支援事業指定校
(葛川小・多羅尾小・マキノ西小)

総合的な学習の時間に学習した内容を英語でクイズにしました。



子どもの様子

- ・沖島のことを相手に伝えるために、いつもより大きな声で発表することができました。
- ・他校の友達の発表に、「えー、そうなんだ」と興味深く聞き入る姿が見られました。

Web会議システムを利用して授業をすることで...

- ・多様な意見や考えに触れる機会の創出
- ・進学時のギャップの解消
- ・遠方の学習施設や専門家との連携
- ・授業の質の向上

などが期待できます。

☆Web会議システムを活用するための環境設定の工夫

- ◇通信中は相手校の音が共有されてしまうので、発表しない時や個別学習の時は、マイクをオフにしています。
- ◇交流中に音声途切れてしまったり、映像が見にくかったりした時のために、ホワイトボードを用意して対応しています。
- ◇子どもの表情や提示する物が相手校にはっきり映るようにカメラや大型テレビの配置を考えています。

